

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900078		
法人名	社会福祉法人 生き生き館		
事業所名	グループホーム ケアポート生き生き館 巨瀬		
所在地	岡山県高梁市巨瀬町5540-1		
自己評価作成日	平成24年3月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成24年4月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>法人の理念、『こころの通うひとづくり』をモットーに、利用者が1番となったサービスを提供する事。気配り、目配り、手配り、孫の手介護の実践。地元からのバックアップを頂き、隣接地の畑での畑作業や、地域行事への参加等を実施。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>のどかで自然豊かな山間地に立地し、県内各所に同様の介護福祉施設を擁する法人をバックに、小規模多機能施設との併設事業所として、元福祉センター長や民生委員などの熱心な後押しを受け、地域の福祉拠点としての期待を担って設立され、1年が経過したところです。地域との連携や各種サービスを充実させていく取り組みを進めていますが、職員の対応が優しく丁寧で、親身になって世話をしてくれていると家族から感謝が寄せられています。管理者をはじめ、スタッフは向上心を持って日々のケアにあたっており、高齢化が進む地域の心強い味方となっていくことと思います。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者ひとりひとりに合わせていけるような温もりと優しさをモットーに「心の通う人づくり」という事業者独自の理念を作りあげています。	法人全体の理念をもとに、年間目標・月次目標を定めて、朝礼後に復唱するなど周知徹底を図り、人として影響を与え合う関係作りを目指して取り組んでいます。	あわただしい1年だったと思います が、原点としての理念に立ち、明確な目標を持って、共有と実践に向けて取り組みを進めていかれることを願っています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだ日常的にまでは出来ませんが、行事毎の地域、また近隣小学校への声掛け、学生の実習の受け入れ、地域清掃への職員、利用者の参加等を行っております。	町内会の清掃、散歩時の挨拶、友人・知人の面会などつながりを保てるように支援しています。また、中学校の体験学習やボランティアを受け入れたり、介護学科の学生の受け入れなども予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所時には一般公開して地区の人に来て頂いたり、中学校の体験学習やボランティアを受け入れたりしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、御家族様、行政の方よりのご意見を頂き改善に努めています。 職員の対応、また事業所からの案内、便り、連絡等についての要望、地域へのPR等のご意見が有り、取り組んでいる最中です。	今年1月よりやっと2ヶ月に1回開催のめどが立ち、市職員をはじめ利用者・家族も参加し、事業所立ち上げに尽力されたという運営推進委員の参加を得て話し合いを行い、サービス向上に活かしています。	ようやく軌道に乗りはじめたところだと思いますが、これからも2ヶ月に1度の開催を目指して、関係者との連携を深めながら取り組んでいかれることを期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問事項等は担当課の方にさせて頂いております。 内部でわからないことがあれば、管理者やケアマネージャーより質問させて頂いております。	事故報告や定期報告の他、職員配置や緊急受け入れについてなど、しょっちゅう電話で問い合わせるようになっており、協力関係を築けるように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正面玄関、通用口等、外部への通路につきまちは、施錠をさせて頂いております。 館内は自由に移動が出来るようになっております。	朝礼やミーティングなどで、事例を取り上げ、身体拘束の具体的な行為について話し合いを持ち、お互いに注意し、理解に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設けております。 ミーティングや朝礼などで事例を取り上げ話をするようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族様へ、お声掛けはしたことがありますが、研修等に取り入れたことはありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、また必要時に随時実施しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議がその機会かと思っております。また運営推進会議にて、別で家族会等もあればとの声もあったので、検討中です。	運営推進会議に家族や利用者の参加があり、話し合いが持たれています。また面会や家族対応での物品購入の際に直接意見や要望を聞くようにしており、反映に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議、ミーティングにて意見を出し合っております。	朝礼やミーティングで話す機会があり、シスター制度を設けて何でも相談できる仕組みになっています。ユニットごとにまとめて起案書の形で提出し、実現できることはすぐに反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施、また職員会議等の際にも研修を取り入れております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は実施できておりませんが、今後の課題だと認識しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の状況把握は3回以上行い、計画作成担当者、入居手予定ユニットの担当者等で実施。利用者様、御家族様との信頼関係構築に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上で努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当サービスの対象者であるか、また他に適切なサービスがないか等も勘案して相談援助を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはして頂く様にしていますが、残存機能を十分活かしたサービス提供に向けて努力をしているところです。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要物品を御家族に持参頂く等、足を運んで頂く機会を何かしら設けて、家族との縁が切れない様、援助しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報もあり、施設から積極的には行っておりません。外部から、連絡等あれば、御家族等へ確認をとり、面会等は行って頂いております。外への援助は家族対応でお願いしております。	小規模多機能の利用者と顔馴染みであったり、畑仕事や散歩時の挨拶、電話対応、近所・友人・知人の面会もあり、家族対応での受診・買物・理美容など馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が触れ合えるように、職員が中に入り、またユニットでの席等、関係性に配慮して実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのように声掛けしておりますが、現状そうしたケースがまだありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子や家族からの聞き取りを参考に、朝礼やミーティングで話し合い、意向の把握に努めております。	面会時に家族から聞き取り、担当スタッフを中心に、連絡ノートも参考にしながら、朝礼やミーティングで話し合い、思いや意向を把握するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント(初期に3回実施)にて把握しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングの実施。また担当者会議の実施にて把握努力しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別計画については、まだまだ思うようなものが出来ておりませんが、カンファレンスを行い、意見を計画に反映するよう努力しております。	3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、個別援助計画をもとにカンファレンスを行い、暫定プランを提示して家族の意見をもとめ、現状に即した介護計画を作成するように努めています。	スタッフはまだまだ不慣れな部分が多いと思われませんが、アセスメントやモニタリングを繰り返しながら学びを進め、個々の力量やチーム力を高めていかれることを提案したいと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過から、以後の対応、他機関との連携につなげております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域行事への参加や事業所行事への案内など、地域との交流や連携に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居利用者につきましては、地域の人たちとのふれあいや児童・学生との世代間交流を図っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設内に看護師を配置しており、協力医療機関と連携し適切に行っております。	協力医への受診や緊急時には事業所に対応しており、訪問診療、家族対応での受診を含め、適切な医療が受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師を配置しており、適切に支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段より連携は密に行っております。また、入院時には、施設での情報を介護添書として病院へお出し、病院にて口頭にて情報共有も行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内でできる範囲について説明し、取り組んでおります。	退院後に即入居となる方も多く、重度化や終末期に向けて、本人・家族と話し合い、事業所でできる範囲のことを説明し、合意を得られるように取り組んでいます。	開設1年余ということで、重度化や終末期への対応については、まだ現実のものとはなっていないようですが、スタッフは知識や技術を磨き、関係機関と連携をとりながら、準備されることを期待しています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時におけるAEDの使用訓練、また心肺蘇生法の研修を実施しております。年度をまたぎ、研修をしていない職員もあり、今年度も実施をさせていただきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現状、災害対策は万全とまではなっておらず、次年度は消防署立ち合いでの避難訓練等、実施させていただきます。	地域からの要望を受けて設立されており、福祉拠点としての役割が大きく、運営推進会議で協力を呼びかけ、災害対策に取り組んでいるところです。	いつ何時どのような災害が起こるかわかりません。あらゆることを想定して、地域や関係者を巻き込んでの話し合いや訓練を実施し、防災グッズを整備するなどの対策が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を通じて、利用者への対応・言葉かけには気をつけております。	接遇研修を行い、言葉掛けや態度などに気をつけ、まず聞くという姿勢で臨み、個々を尊重した対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まだまだ不十分だと思いますが、好きなことなど希望に添えるように努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の外出希望等には、その時の職員の動きにもよりますが、できるだけ対応するようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重しつつ、援助を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	立ち上げ当初は出来ていましたが、現在はADLの低下等にて、あまり配膳準備等を利用者様が出来ておらず、現状の課題となっております。	栄養計算されたメニューや専門の調理員による食事は、おいしいとの感想が寄せられています。畑で収穫したものを食卓に乗せたり、行事食や祝い膳、おやつ作りなど楽しみが持てるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量、また月毎の体重の増減等を記録し、状態の観察、栄養士・医師との連携に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	内部研修を通じて理解を深め、実践しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を心がけ、自立にむけた支援を行っております。	排泄パターンをチェックして、適宜声掛けしながら、日中はできるだけトイレでの排泄を心がけ、自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物に注意し、予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日で決まっていますが、体調、または気分による訴えも取り入れて、変更等は随時行っております。	浴槽をまたぐのに不安のある方に特殊浴槽での入浴を支援したり、気分や体調により変更したりと、希望に添いながら柔軟な対応を心がけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	畳のコーナーや談話スペースを設け、休息できるように取り組んでおります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携しながら支援に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業をする方、貼り絵が好きな方、おられますが、同じ日に色々とは出来ませんが、日を変えたり、季節にてレクリエーション、作業等を考えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、通院、行事などの外出を支援しております。個別にはご家族が対応して外出されています。	散歩や畑作業、施設内の移動、通院、福祉センターの図書館に出かけたり、初詣・花見・神楽などの年間行事、家族対応での外出などよく支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様によっては、所持して頂き、近所の商店にて使用されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	回数や頻度は家族と御話しておりますが、電話はたまに掛けていただいております。手紙は、まだ一度だけ利用者様が書いたものと、最近の写真を連絡物を送る際に同封にて郵送した事があります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアには畳のコーナーがあり、テーブルの配置を工夫し、リラックスできるように配慮し、温度・湿度の管理も行っております。	リビングにはテーブル・椅子が置かれ、畳のコーナーが設けられており、キッチンから居室やトイレなど全体が見渡せるつくりになっています。温度・湿度なども管理され、居心地よく過ごせる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机を分けたり、廊下に談話スペースを配置したり、畳スペースを活用したりしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物の持ち込みは許可しておりますので、使い慣れた家具の持ち込み、また家で使っていた茶碗、箸、湯飲み等をお持ちいただき使用して頂いております。	居室は広く、洗面・物入れの設備があり、明るく清潔で、利用者はテレビや使い慣れた家具などを持ち込み、思い思いに配置して居心地よく過ごせるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	まだまだ不十分だと思いますが、安心して過ごして頂く環境づくりに取り組んでおります。		